

## 富士見市公民館運営審議会議事録

開催日時	平成26年9月18日(木) 午後7時～9時00分
会場	鶴瀬公民館 いきいき活動室
出席者	世羅陽一郎 瀬戸篤 山川亜紀子 田中聰行 秋元富美子 中正美 高橋康子 是永国彦 山本百合子 川端正則 関根健一 平井光夫 尾形忠男 浅見隆志 (以上14人) 鶴瀬公民館長 南畑公民館長 水谷公民館長 水谷東公民館長 鶴瀬公民館担当 (合計19人)
欠席者	戸川榮一 吉川英亨
会議次第	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり
会議録確認	世羅陽一郎 委員
公開・非公開	公開(傍聴人0人)
会議内容(要点記録)	
<p>あいさつ 議長</p> <p>鶴瀬公民館長より報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水谷東公民館区戸川榮一委員の9月末日での辞任および、同区の本田和子氏の10月1日付での委嘱について教育委員会議で議決された旨の報告。</li> </ul> <p>〈報告事項〉</p> <p>(1) 上半期事業報告</p> <p>資料に基づき上半期事業報告として8月末現在、各公民館で終了している事業について鶴瀬公民館、南畑公民館、水谷公民館、水谷東公民館の館長より順に報告。</p> <p>議長 4公民館からの事業報告があり、その中で4項目「学級講座」、「情報提供」、「施設提供」、「運営評価」について何か質問は。</p> <p>委員 上半期4月～9月が対象で、上半期の報告であれば上半期の時期に計画達成していれば一般の考え方としては良いと思うが、これが年度の報告であれば上半期、下半期、四半期報告となる。いずれ評価するのであればこの計画は何に基づき評価をしていくものなのか、期日と回数もあるが、どういう形にするのかを書き方も含め考えておく必要がある。</p> <p>議長 ただ今、委員より改善点での意見があった。</p> <p>館長 上半期は9月末までだが、今回は8月末現在で資料として出した。まだ2回程会議があるので報告は出せる。また、こういう形にして出してほしいというものがあればそうする。たとえば時期により実際には遅れてしまうことで評価しながら出してほしい場合もあると思うが、年度事業記録の「富士見の公民館」へ事業ごとに纏めて出す予定である。それを踏まえて意見を貰い検討する。</p> <p>委員 その辺をはっきりしておけば分かりやすいと思う。</p> <p>館長 意見を出してもらえば整理する。</p> <p>議長 進捗状況の中で、この評価では分かりづらいので一目で分かる表が良いと思う。</p>	

## (2) 入間地区公民館連絡協議会 館長・公運審委員合同研修について

館長 入間地区公民館連絡協議会の研修として館長と公運審の合同研修として開催された。公民館職員を含め9名が参加した。主な内容として公民館の歴史、役割、今後どのように再生していくのかをテーマとした研修。

議長 講師の教授は各地方の公民館を良く見ている。また、海外の視察に行かれている方でもある。質疑の中で鶴ヶ島市の公民館では、今年度で公運審制度が無くなるとのショッキングな話や、公民館のセンター化等が進んでいるとの話に公民館の位置付について危機感をもった。

### 〈研修（オリエンテーション）〉

#### (1) 富士見の公民館の歩みと課題

館長 資料に基づき公民館長より「富士見の公民館のあゆみ」について説明。

### 〈協議事項〉

#### (1) これからの公民館（事業）の課題について

館長 みなさんからの意見を出してもらうため、今回テーマを用意した。また、資料として過去の公運審の答申を示した。当然、公運審として諮問に対し、答申を出してもらうのが基本である。平成22年度には答申があったがそれ以前は意見書という形で公運審のみなさんから意見を出してもらっていた。平成18年度は、「これからの公民館の在り方として少子高齢の時代とまちづくり」というテーマで子育て支援事業、高齢者対策支援事業の問題について意見を出してもらっていたので、今回こういうテーマを設けた。今日は、各委員の捉えている課題について自由に出してもらい、事務局の方でいったん纏め、次回以降テーマを分け議論をしながら改善策を出していく。また、地区ごとに議論を重ね、意見を集約することも可能。今回議論のポイントとして13項目を出してみたが、これに沿うことなくみなさんから出してもらいたい。

議長 公民館より課題を出すためのポイントを出してもらったが、この他にもみなさんからの意見も出してもらいたい。

委員 公民館利用の点で参加者は年々増えているのか。どの区分で増えているのか、参加者の青少年、高齢者と分けての集計データはあるのかどうか、それがどう推移してどう減っているのかが見えてないので、利用方法のどこを攻めていいのかわかりにくい。参加者の利用についてどう推移しているのか障害者も含めどのような形になっているのかわかると手の打ち様を考えられる。また、広報活動が十分であるかを課題としたい。公民館だより、ホームページがどのように進められて何が挫折しているのかを聞きたい。この前の研修会の話聞いた時に公民館の趣旨、狙い、歴史の都道府県別、各自治体別、海外の事例も上げ、最後に公民館のあり方に変化が出てきて公民館の再生とか再編成についての話があり、今回、我々が考えていかなければならない。公民館としてどうあるべきかを最初に議論をしておかないと、それに対して毎年の事業計画は、これだけ予算があるから少しやっておくとかその計画に基づいていかないといつまでも同じ活動になってしまう。

公民館はどうあるべきか、将来の姿、理想像など本来は先生の考え方を抜き出してもらえたら良かったと思うが、あることだけを話しておられた。講師が言っているのは自分たちで行動することで、住民自らの生涯学習はあるべきで、まちおこしから進めないで存続はしないなどの話であった。

館長 こちらとしても公運審のみなさんそれぞれの考えの中での課題であるため、今後の公民館の運営を考える上での参考として、事業はこうあるべきで当然こういう議論を出してもらう場であるから出しても良い。話のとおり利用状況とかこれまでの議論の統計的なものがなければ実際には分析が出来ないと思うので、富士見の公民館の冊子としてまとめた物もあるが、それ以外の情報等も出していききたいと思う。年齢別の利用状況を公民館として全てを把握していない。サークルの利用状況の中で高齢者や、女性を中心とした団体などは分かる範囲である。その辺の分析資料があれば提供する。全体としてこの間、利用人数は微減している。公民館として今後、サークルの数や講座を増やす方向でいく。

委員 人口が減ることによる利用の占有率は何%高齢者が増えているのか、それを引き出すことが大事である。また、4公民館をうまく利用しながら、新しい利用者を公民館に取り入れていかなければならない。

委員 分析が無ければニーズは掴めない。今までの分析は、若い人が少ないという感覚的なもので数的根拠がない。やるとなると大変な作業だと思うが、一つの方法として利用団体登録時にその団体の年齢カテゴリを作成しておき、利用時の報告書に基づき計算するだけでも違うと思う。民間企業だとマーケティングをし、ニーズを調査した上で、ターゲットをしぼりブランディングしていく。このようにマーケティングの段階で、データ化されたものでニーズを掴み、ターゲットを絞る。今回のターゲットは、具体的には若い方。色々見ていて感じるのは、子育て層というアプローチ全てが母親対象の視点にたっている点、男女の性別はあえて書かず子育て家庭となっているが、実際に行われる時間帯、曜日は仕事をされていない母親しか出られない事業が多い。増やしたいのであれば、あえて父親が参加しやすい土曜、日曜の事業を増やすことが必要である。

委員 私は水子地区で、小学校の空き缶回収のボランティアをお願いした時、3年在住の方に地域の事に参加したいが何処に聞けば良いのか分からない、そんな時に声をかけてもらって良かったと言われた。ニーズはある。地域に貢献したいと思う方、特にボランティアをしようとする方が多くなった。そういう意味では、公民館の中にボランティアステーションみたいなものを常設しておき、何かしたい人にはコーディネートする仕組みを作るのもよいと思う。あとは、若い人達の意見を集める場を作るとかPTA会長へ声を掛け懇親会等で部屋を借りてもらうとか、現在、使用料を免除されている団体もあるが、それを個人のレベルに落せるようなら気軽に子育て層が公民館を利用しやすいと思う。その他、何かをアピールする時、公的機関が作成するポスター、チラシが代わり映えしないので、誰も気に留めなくなっているのではないか。楽しそうな仕事をしている公民館職員の写真入りカラーポスターを作り、写っている人物が何処の公民館にいるかの所在探しを、仕掛けたら面白いのではないか、注目を集めたところで、一つずつ具体的に関わっていくようなことが出来れば良いと思う。

委員 南畑公民館は、年2回利用者懇談会を公民館職員、公運審、利用者の会を交えて会議を行っているが高齢者ばかりで若い人は来ない。内容も公民館の改善について意見を求められてもサークル活動内容などの話で終わってしまう。また、公民館からのアプローチだけでは事業紹介をして人を集めるのも限界にきているので

はないかと思う。これからの公民館に必要なことは、利用者のニーズにあったシステムの構築であり、分かりやすい周知方法ではないかと思う。質問箱みたいな物を設置してもらえたらもっと気軽に公民館へ通えると思う。パソコン操作で解らないことで困っていたら、たまたま違う所から公民館でパソコン教室をやっていると聞き、尋ねていくと親切に教えてもらい非常に助かった経験をした。

委員 ニーズから自分の求めるものに情報検索しても行きつかない。パソコン操作がわからず検索をかけても教えてくれる情報にたどり着けない。今は、開催している事業が列記されているだけで、ニーズと繋がる工夫がない。グルメ本であれば今日は肉が食べたいと検索しても番地ごとに並んでいたらその肉屋に行きつけない感覚である。求める情報に行き着くよう、アナログでも良いのでそういう仕組みでなければならない。

委員 水谷東公民館は、高齢者および子供達を育てているが中間層がない。文化祭などで小学校、中学校に場所を提供し作品などを展示させているが、母親は見学に来るが、父親は来ない状況にある。

委員 南畑公民館で会議に出席しているが、非常に多くの方が公民館活動を理解し手伝ってもらっている。職員も丁寧な対応と一緒に活動しているが、さらに特色を求めたい。講座はあるが子育ての悩みとかを多くの方がかかえている。現在の学校教育の課題だと思う。市役所の電話相談とか色々あるが電話も掛けづらい。逆に公民館であれば相談しやすく教育相談も出来る余地があるかもしれない。それには人材や予算も必要になることから大変難しいが、地域全体を考えるのであれば複合的な考えも必要である。

委員 利用する側として公民館利用も増えている。ただ公民館で会う方は、毎回同じで様々な団体に参加される方である。団体に参加されていない方も公民館に来館したくなる取組みを私達の仕事としていければと思う。ららぽーとの関係もあり、南畑公民館も新しい人達を呼び込めたらと思う。

委員 様々な意見の中で、今の公民館をどのようにしていくのかは、様々なアプローチが必要である。公民館職員だけでは無理があるので、利用者が提案を持ち公民館へ働きかけることが必要である。

委員 水谷地区の会議をやったが、色々な事業を展開している。職員も一生懸命やっている。子供の作品展などに足は向くが、公民館事業に自分から参加したことがない。子供を通して公民館では、こんな活動もしていると広めていき、気軽に公民館にいければと思う。

委員 何をやっているかも実際よくわからない。その中で英会話教室や写真とかで、富士見市だったらこの公民館へ行けば、いつから講座をやるとか英会話や日本語の講義などの活動を知りたい外国人もいると思う。子供達がちょっと知りたいことや仲間になれるシステムができれば良いと思う。ニーズがあり、そこから調べると求めるものが出てくるようなシステムがあれば良いと思う。

議長 利用者、地域のニーズをくみ上げていけばもっと良いものになるとの意見でした。沢山の意見を参考に、公民館の課題については次回絞って協議する。

委員 グローバルな社会になって行く過程で、富士見市に住む外国人と接点を持つ機会が増えるのは良い。サークルも含め管内の国際交流はふじみの国際交流センターで、週2回やっている。針ヶ谷コミュニティーセンターでは、予約日の日に野菜販売をやっており、公民館ではやらないような事もやるので、そういう取組みもあつたら面白いと思う。

委員 高齢者などのベテランが中心で、若いリーダーが育たないのは引継ぎがされていないと思う。リーダー研修みたいな制度を設け認定するような仕組みも必要だと思う。

議長 色々な意見が出ますが課題についてはよろしいか。

館長 こちらの方で纏め、提案もいくつかあるので少々整理したい。

(2) その他

館長 社会教育委員研修会があるので、希望があれば出席をお願いします。また、郷土富士見検定は、今年第3回目を行う。問題集も配っているので興味があれば受けてもらいたい。

なお、次回の日程は12月10日(水)午後7時からとする。

副議長 閉会する